

夢は『イージス艦』の艦長

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 松浦一海尉）は、2月14日（木）、防衛大学校一般（人文）に合格した粟地 あわち りゅうた 龍斗さんに対し、護衛艦「こんごう」の見学を実施した。粟地さんは3年前に横須賀で実施されたイベントで松村広報官（当時、市ヶ尾募集案内所）と出会い、海上自衛隊に興味を持った。松村広報官の中学校の後輩であったこともあり、2人は関係を深め、この3年間で多数の海上自衛隊イベントに参加するとともに、航空自衛隊入間基地での体験搭乗や2年連続で自衛隊音楽まつりを一緒に鑑賞する等、常に将来は自衛官になるための広報を受け、この3年間で一緒に歩んできた。

この度の見学については、粟地さんが以前から望んでいた護衛艦（イージス艦）見学を行うため、松村広報官は横須賀に寄港中の護衛艦「こんごう」に出向き、事情を説明すると、防衛大学の卒業生である護衛艦「こんごう」砲雷長・板垣2海佐が事情を快く酌んで下さり、今回の見学が実現した。

粟地さんは、初めてのイージス艦を目の当たりにし、とても興奮した様子で防衛大学校卒業後は何としても海上自衛隊に進み、護衛艦（イージス艦）の艦長になりたいという夢を語ってくれた。対応して下さった板垣2海佐も、粟地さんの真っ直ぐな気持ちを酌み、艦内での説明は1時間以上にも及んだ。この見学をきっかけに、更なるやる気が湧いた粟地さんは、今後、防衛大学校に進んでも今の気持ちを忘れずに頑張っていけると松村広報官は確信し、この見学を終えた。

横須賀地域事務所では「今後も対象者に寄り添う広報を心掛け、更に多くの対象者が自衛隊への理解を深め、入隊に導きたい」としている。



艦長の席に座ってご満悦の粟地さん



艦内に説明中の板垣2佐（左）と粟地さんと保護者（中央・右）



板垣2佐による概要説明を聞いている粟地さん

念願の機関員として部隊へ羽ばたく

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 野田3海佐）は2月15日（金）、海上自衛隊横須賀教育隊で実施された一般曹候補生及び自衛官候補生の修了式に参加した。この日は朝から雪が降り始め、厳寒の中での修了式となったが、教育を修了した新隊員たちは皆、寒さを吹き飛ばすように凛とした雰囲気ですべて修了式に臨んでいた。

厚木募集案内所から海上自衛隊に入隊した長谷川希美2海士は、会社員として民間企業に勤務をしていたが、平成29年10月、砕氷艦「しらせ」の体験航海に参加をした際、勤務にあたっていた女性自衛官の姿や装備品に触れ、艦艇勤務の魅力にとりつかれた。そして自身もいつしか海上自衛官として艦艇、特に「しらせ」で勤務をしたいとの強い想いが募り、家族と相談をした結果、海上自衛隊を受験する決意が固まり、平成30年5月に行われた一般曹候補生試験で見事に合格、平成30年9月に一般曹候補生として海上自衛隊横須賀教育隊に入隊し、4ヶ月の厳しい教育を無事に修了して大湊警備隊（青森）に配置された。

機関員に指定された長谷川2海士は、「たくさんの良い同期に恵まれ、厳しい教育を乗り越えることができました。念願の機関員として艦艇に勤務できるので、いつかは砕氷艦「しらせ」に乗艦して南極に行き、南極の氷を厚木募集案内所に届けに行きたいです」と目を輝かせて話をしてくれました。

担当した広報官の高杉2陸曹は、「努力を重ねて海上自衛官になる夢を叶えた長谷川2海士を担当することができ、とても嬉しく思います。入隊を志願する若者たちの人生に関われる広報官という仕事を誇りにして、今後も募集広報業務に努めていきたい」と語った。厚木募集案内所は、「募集対象者の特性に応じて親身に対応したことで、有為な人材を獲得することができた。今後も募集対象者に対する親身な募集広報に取り組み、1人でも多くの志願者を獲得できるよう募集活動に励んでいきたい」としている。



高杉広報官（左）と長谷川2海士（右）



同期と記念撮影する長谷川2海士（左端）